

# 明治天皇ご休息所記念碑



板碑



薬師如来像





# 山の神





真室川町指定史跡

## 鮭延城跡



鮭延城は別名「真室城」とも言われ、近江国（現在の滋賀県）出身で最上地域の北部を治めた鮭延氏の居城でした。

天文4年、鮭延貞綱が真室郷に城を築きました。その息子である秀綱のときに最上義光による鮭延城攻めが行われましたが、城を落とすのに2年を要し、その堅固さから北の要害と名を轟かせました。

最上家の家臣となった秀綱の活躍はめざましく、長谷堂合戦で上杉の山形侵攻をくい止め、後に家老になりました。

元和8年の最上家改易に伴い、鮭延秀綱は老中土井利勝の預かりとなり鮭延城を去りました。

元和9年に新庄藩祖戸沢政盛が仮城として鮭延城に入りましたが、3年後、沼田に築いた新庄城に移り、廃城となりました。

平成7年3月30日、町の史跡に指定されました。

真室川町教育委員会



# 鯨延城跡 周辺マップ

## モデルコース

- Aコース 大手門口 ⇒ 曲輪 ⇒ 井戸跡 ⇒ 虎口 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸
- Bコース 搦手門口 ⇒ 常曲輪 ⇒ 搦手門口 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸
- Cコース 薬師堂入口 ⇒ 堀切 ⇒ 搦手門 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸

- ①曲輪(くまわ) 城の区画。傾斜地を巡って水平になっている。
- ②臥室(しむし) 斜面上下方向に設けた室。
- ③堀切 空堀の一種で、敵の侵入を防ぐため掘削した軍の守りの拠点。ここでは三重に掘られている。
- ④虎口(にぐち) 城の要所にある出入り口。楕圓の仕切りをもち、その中を曲折して出入りした。
- ⑤搦手門(からめてもへ) 城の裏門で有事の際はここから城外へ逃れた。
- ⑥矢竹 矢輪の材料として使用された。
- ⑦サイカチ マツ科の落葉高木。豆果は石輪の代用や薬として用いた。
- ⑧常曲輪(おびぐるわ) 城の山腹に付けた細長い曲輪で、搦手門口には広大な跡が見える。「馬場」とも言われた。



①堀井戸跡 (通称:すず) 城の水源。水量が少なく、最上氏の鯨延城攻めの際、兵糧攻めを受けた鯨延軍が沢までおりて急襲を受けたといふ。(『奥羽永慶軍記』より)

②御前塚 (ごぜんだん) 初代新庄藩主戸次政盛公の正室、奥室御前の墓所。鯨延城を依住まいとしていた時に死去し、当地に移されたのちに墓所は、新庄市太田(後け寺敷)に移された。

③平岡館 (ひらおかだて) 初代徳川守の居城。幼少から鯨延秀綱に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に従い土井氏預かりとなる。その子息の1人は修験者と変わり、平岡の地に光明院を建立したと伝えられる。

④陣場跡 (じんばあと) 天正13年、最上氏が鯨延城を攻めた際に築いたも城の北陣場と南陣場があり、北陣場後方に本陣と思われれる場がある。南陣場は歴代徳川守の陣跡で、俗に延沢陣といわれている。

⑤香経菰 (かんなももり) 天正13年、最上氏の鯨延城攻めの際、最上・鯨延両軍の討死者を合葬した墳墓。毎年徳川家を開催していた。

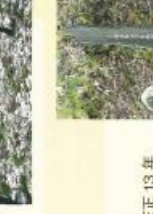
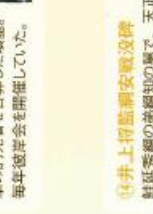
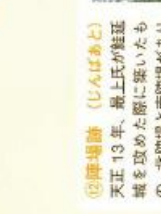
⑥三弘山正徳寺 (さんこうざんしょうたけ) 天正18年5月、鯨延氏の菩提寺として建立した。正面の大きな山門は、元は湯殿山大日坊の総門であったものを昭和36年に移築したもので、平成元年に町の文化財に指定。また、国の重要文化財「土儀」が安置されている。境内裏手に貞綱・秀綱公の墓所がある。(上段写真:山門) (下段写真:墓所)

⑦常曲輪 (おびぐるわ) 城の裏門で有事の際はここから城外へ逃れた。

⑧常曲輪 (おびぐるわ) 城の山腹に付けた細長い曲輪で、搦手門口には広大な跡が見える。「馬場」とも言われた。

⑨オクミ館 (おくみかた) 鷹侍館、御前館ともいわれ、鯨延氏の足軽と力などが居住した小丘地。当時は物見櫓があり、時刻などを知らせる鐘があったとされる。

⑩重徳寺 (ゆくしどう) ここに安置されている如来像は、鯨延氏の近江国からの持念仏とされる。境内に徳綱が流行った時に人々に持ませたところ、たちどころに治つたといわれている。白鳳文化の特徴をとらえている。昭和62年に国の重要文化財に指定。(写真:銅造如来像)





## 鮭延氏(佐々木氏)略歴

文明 8年 (1476) 佐々木綱村、近江国より下り仙北小野寺氏の関口の番城を預かる

天文 4年 (1535) 貞綱のとき、戸沢村岩鼻に入る この頃、鮭延城を築く

永禄 5年 (1562) 秀綱誕生

永禄 6年 (1563) 庄内武藤氏より岩鼻楯を攻められる 秀綱2歳で武藤氏の人質となる

天正10年 (1582) 秀綱21歳のとき、庄内から戻り鮭延城主となる

天正13年 (1585) 最上義光による鮭延城攻めの後、最上家の家臣となる

元和 8年 (1622) 最上家改易 秀綱、老中土井利勝の預かりとなる

元和 9年 (1623) 秀綱罪を許され、下総国佐倉藩 (千葉県) へ、五千石を賜り土井利勝の客人となる

寛永10年 (1633) 土井利勝の古河藩 (茨城県) 転封に伴い、秀綱も移る

正保 3年 (1646) 秀綱没する (享年84歳) 家臣14名が土井家に仕官する

慶安 元年 (1648) 秀綱の菩提寺として鮭延寺が建立される (茨城県古河市)



鮭延城跡から真室川町を望む

🌸 JR真室川駅から → 車で5分  
徒歩15分

🌸 JR羽前豊里駅から → 徒歩10分



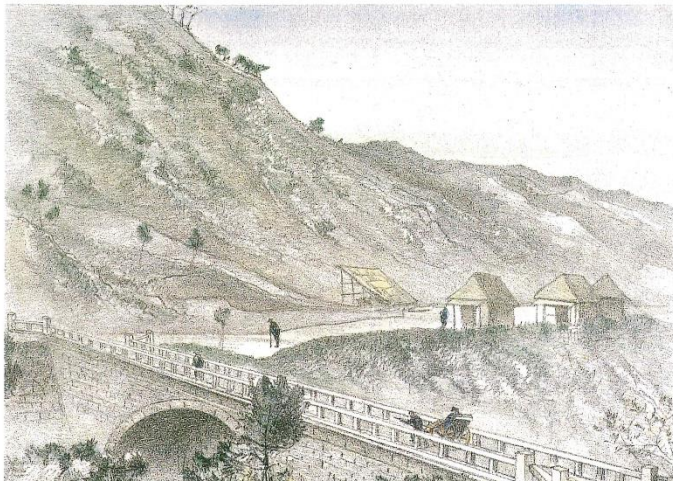
発行 真室川町教育委員会

山形県最上郡真室川町大字新町 233-1

TEL0233-62-2305/FAX0233-62-2306

# めがね橋

新及位の萬代橋  
昭和50年8月6日真室川水害復興で取り壊され現在の橋となった。



高橋 由一(たかはし ゆいち)  
文政十一(一八二八)から明治二十七(一八九四)年  
江戸生まれの洋画家、日本最初の洋画家。  
明治十四(一八八一)年、山形県令であった三島通庸の要請を  
受け、三島の土木工事の記録画を描いている。  
当町を描いたのは、この二画と主寝坂峠から男甕山と女甕山で  
ある。由一はこの山を雄勝峠と説明したが間違いである。

## 十三 高橋由一の土木工事記録絵画と現在の写真

今も残る雄勝峠の切通





## 十四 田山花袋著「日本一周」

博文館 大正三〜六年

汽車は国道とやや離れて、その左十二里のところを北に向かつて行っている。泉田、新町、釜淵—この三駅を経て、これから院内峠にかかろうとする及位村に行っている。国道上には、金山という小さな駅次があるはずである。

金山の一夜—私には忘れられない印象を残している。秋田の院内から及位まで来る間は、大きな峠が一つあるばかりだが、それから小さい峠がいくつとなく出て来て、私は思わず長い時間を費やした足のくるぶしがたがたするし、腹は減るし、峠で買った柴栗はなくなってしまうし、日は暮れかかるし、寒いし、その侘しさと言ったらたとえようもないほどであった。それを漸く峠まで越して、下に金山の人家を見た時には、何とも言われないほど私はうれしかった。薄暮の色は既に迫って、家々の屋根からは薄い紫の煙が低く靡なびいていた。

新庄—泉田—新町—釜淵—及位—院内  
院内峠（雄勝峠）—及位—主寝坂峠—森合峠—金山…院内

花袋はなぜこのようなコースを選んだのか。金山に行きたいというのと、峠を歩いてみたかったのであろう。体力面で大変な想いで金山に入ったと考えられる。

## 十五 柳田国男、及位に来る

柳田国男（1875〜1962）は昭和七（一九三二）年、山形師範学校から講演を依頼され、東北、信州旅行を組んだ。その旅をもとにした「信州随筆」の中に、「峠と上の杉」という文がある。

「秋田県から山形県へ越えて来る。これも今日の大隧道の上の峠

を、以前は及位峠一名杉峠といって、これにも大なる矢立杉があり、旅人の道中平安を祈る地であった。」

野村敬子氏（口承文芸研究者）は、柳田が鮭延瑞鳳（真室川の郷土史家）の昔話によつて最上郡に興味を持ち、杉峠に登ったことを関敬吾博士（昔話研究の事務局長）から伺つたと述べている。

恐らく秋田側から登り、及位駅から帰つたものと考えられる。

「信州随筆」昭和三七（一九六二）年（定本柳田国男集「一二二巻」）

柳田の推測—神木に向かつてその箭を射立てることを意味したので矢立てという地名が始まった。

菅江真澄—紀行文「牧の冬枯」で、矢立ての矢は弓箭とは関係ないことで、杣が木を伐る道具（くさび）をこの地に立てるから矢立という。

## 十七 歌集「湧水」 板垣家子夫

昭和五十八年四月三十日発行 群山叢書

第二百一十二篇 主寝坂峠

雷鳴が 主従を男女に 帰せしめし

物語りの山を 秋に吾が越ゆ

主従の境 越えし交りを 大切に

若草山に 姫を一生恋ふ

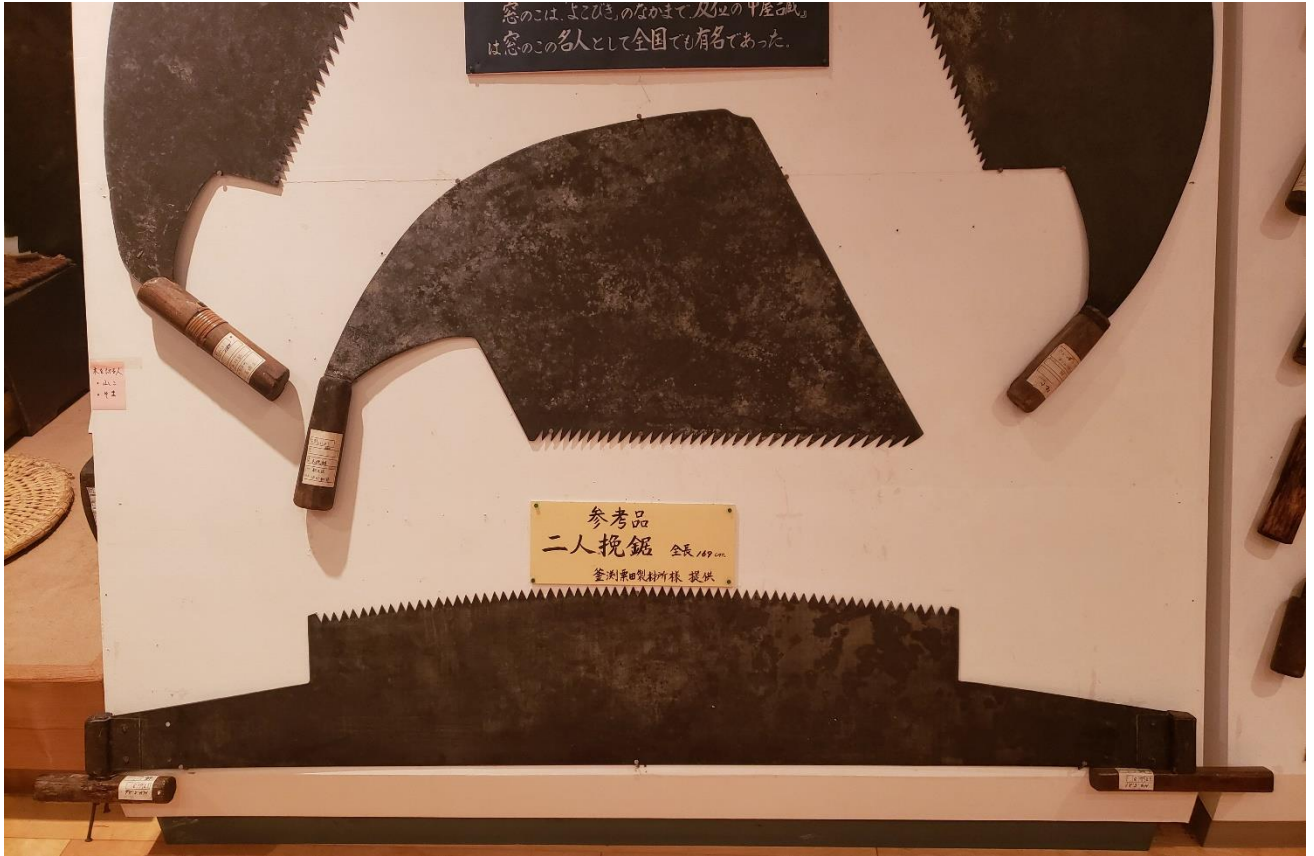
その後に 郎党山に 引返し

山に老い果つ あはれに清く

# 中屋吉蔵（窓鋸）









# ・中屋製鋸工場

中屋製鋸工場は明治27年創業以来約90年、大正10年窓鋸を考案し製造発売した。昭和にはいって、その実用性が認められ、以来日本全国に真室川(中屋)産の鋸が発送され、常時およそ30人の職人が昼夜兼行の製作でも需用においつけない程の注文が殺到したといわれている。

## やまたが再発見

### 49. 中屋吉蔵(初代)

真室川町歴史民俗資料館長 梁瀬 平吉

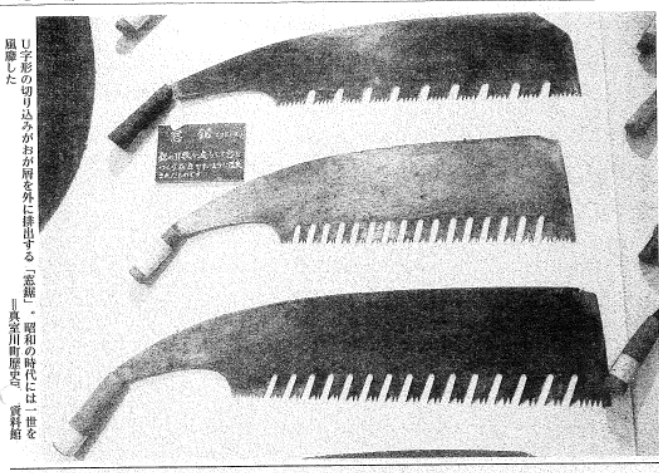


昭和10年、山形市に生まれる。山形市立第一小学校、山形市立第一中学校、山形大学経済学部卒業。昭和10年、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設。昭和10年、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設。昭和10年、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設。



昭和10年、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設。昭和10年、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設。昭和10年、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設。

## 「窓鋸」の実用化に成功



既存に飽き足らず、改良を重ねたことは、画期的な技術革新だった。

山形の鋸師は、明治27年、中屋吉蔵(初代)が創業した中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。

山形の鋸師は、明治27年、中屋吉蔵(初代)が創業した中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。

山形の鋸師は、明治27年、中屋吉蔵(初代)が創業した中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。吉蔵は、山形市に創業する中屋製鋸工場を創設した。